

のう じ でん そう
農 時 電 送

JA新はこだてせたな営農センター・JA今金町

乳牛・肉牛No.2

檜山農業改良普及センター檜山北部支所

TEL 84-5514

刈り高10cmで牧草収量・品質アップ

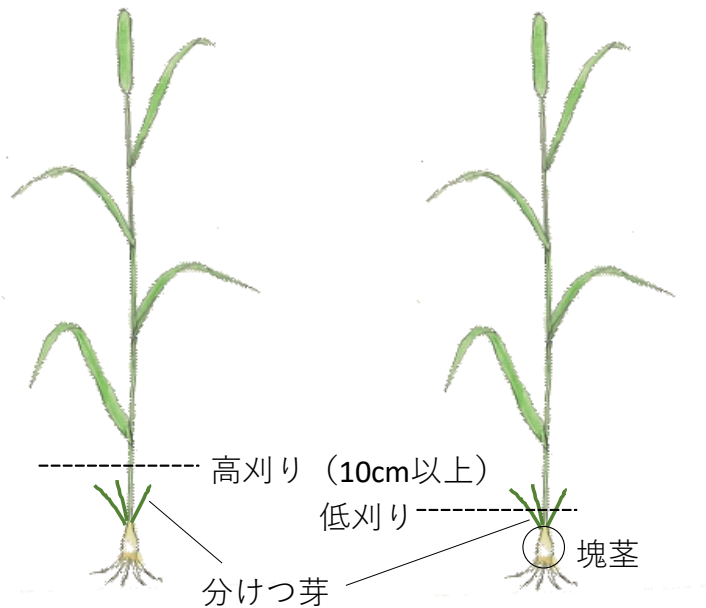
今年も一番草収穫の時期が近づいてきました。スムーズに収穫作業に入れるように機械メンテナンス等の準備を早めに行ってください。

牧草収穫では10cm以上の高刈りが推奨されています。高刈りには収量・品質の向上、植生維持などのメリットがあります。そのため、刈取機械（モアコン、ディスクモア）を高めに設定し、刈り高が10cm以上になるようにしましょう。

《刈り高の影響①》

チモシーは根元から分けつ芽を伸ばし、二番草を再生させます。高刈りの目的はこの分けつ芽を傷つけないようにすることです。

刈り高が低いと、分けつ芽や塊茎を傷つけ、二番草収量低下や個体の枯死を招く可能性が高くなります。



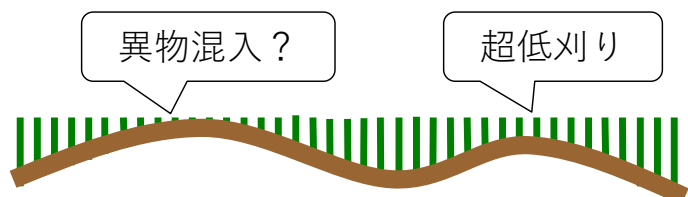
《刈り高の影響②》

低い刈り高で傷ついたチモシーは弱体化し、代わりに雑草が繁茂しやすくなります。高刈りはチモシーの弱体化を防ぎ、草地を長持ちさせます。

《刈り高の影響③》

牧草地は凸凹があるのが普通です。

刈り高が低いと凸凹の地表面をモアコンで削ったり、地際に散布された堆肥等を拾う可能性が高くなります。



土や堆肥が牧草に混入すると牧草の品質低下や牛の嗜好性低下を招きます。